

花粉採取事業結果報告

令和6年12月19日

事業の実施について

市川市・船橋市で約300名の梨生産者があり、高齢化等により花粉の自家採取量は年々減少し、管内生産者の約8割が輸入花粉を使用している。中国花粉の輸入停止に伴い、自家採取の推進だけでなく、従来の開葯施設の受入の強化に向け取り組んでいるが、それでも必要数量の確保が難しいことが懸念されるため、補助事業を活用し実証事業に取り組む。

特に開花の早い品種（新高）に対し使用する花粉の確保が困難なため、時期を早めた花粉の採取として、生産者から剪定枝の提供を受け、剪定枝からの花粉採取の実証を行う。新高のほ場（約45ha）では粗花粉量が3,150g必要となるため、そのうち自助努力でまかなえない約50%の1,600gの確保に向け、管内生産者より10,000本枝を回収する。

実証で得たデータは管内生産者へ文書等での情報共有を行う。また、実証とは別に開葯・精選については既存の設備を強化し、受入の増幅を図る。なお、加温実証は、JA支店の会議室の設備を用いて行う。

実施内容の報告について

1 花粉確保の体制構築

令和6年3月	なし剪定枝からの花粉採取方法検討会を実施 参加者：千葉県農林総合研究センター 千葉県東葛飾農業事務所 市川市 JAいちかわ	内容： ・事業実施に向けた体制整備として各機関の役割について ・事業内容の検討
令和6年11月	なし剪定枝からの花粉採取の実証評価検討会実施 参加者：千葉県東葛飾農業事務所 市川市 JAいちかわ	内容： ・実証の結果報告及び実績報告書について ・反省・改善点等の件 ・今後についての検討

・花粉採取方法検討会の内容について

剪定枝回収期間	3月11日（月）～15日（金）	開葯場所	JAいちかわ市川経済センター 花粉銀行設備を利用
搬入時間	13：30～15：00	調査内容	枝の重量 開花させた花の重量 採取した葯の重量 発芽率の調査 (5～10検体をランダムで選抜)
搬入場所	JAいちかわ 市川経済センター		

開花場所	JA いちかわ船橋支店 及び船橋経済センター 会議室	加温・ 採取方法	千葉県の採取マニュアルを 参考に実施 参考：千葉県 HP 授粉用なし花粉採取マニュアル 技術指導資料／千葉県
------	----------------------------------	-------------	--

2 花粉生産技術実証の取り組み内容

令和6年3月18日（月）～29日（金）	なし剪定枝からの葯・花粉採取を実施。
---------------------	--------------------

実証について

剪定枝持込方法	<ul style="list-style-type: none"> ・豊水を中心に回収（長さ 50～120 cm程度の枝） ・約 100 本（抱えて持てるくらいの量）で束をつくる（肥料袋に入れる 等）
加温方法	<p>室内で暖房（エアコン：設定温度 30℃）を利用。乾燥しないよう加湿器（台）を用い、湿度 70～80%を維持。光合成を促進するため 24 時間室内の電気を点灯したままとした。</p> <p>バケツに水を入れ、切り口を斜めにそろえた枝を入れ加温した（バケツの水は水のみで鮮度保持剤等は使用しなかった）。</p> <p>概ね 10 日間加温し、開花に至った。</p>

3 結果

剪定枝の回収について、本数での計測が困難だったため、重量での計測とした。花粉量については、目標の 1,600g に対し、1,300g の花粉が採取できた。採取できた花粉については持込枝重量で按分した。

目標よりも花粉採取量が少なかった理由としては、参考にした既報の花粉採取マニュアルでは、自然開花の数日前から枝の加温を開始しているのに対し、今回の実証では自然開花の約 3 週間前から加温したことから、花粉の成熟が十分ではなかった可能性がある。本実証により、枝の加温を開始する時期が早いほど、得られる花粉量が減少する可能性が示された。

項目	内容
枝持込生産者数	40 件
枝回収量	2,400kg
採取花量	70,7kg
採取葯量	4,900g
採取粗花粉量	1,300g
発芽率	A（60%以上）

なお、目標に対する不足分 300g については、ミツバチの導入や各生産者の自家採取量の増加によりまかなうことができた。

自家採取の支援として、例年行っている花粉銀行（採葯・開葯・精選）の設備を強化し、

開葯等の受け入れ増加に対応できるよう整備した。花粉銀行では、生産者より預かった花・葯を次の日に粗花粉・純花粉の状態にし、お預かりした生産者へ返却する。R6年度の花粉銀行受入件数は106件で、R5年度の54件から52件増加した。